

令和5年6月16日

6月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調だが、虫害等により間伐材作業への切り替えもあって、間伐材中心の入荷となっており、少し落ち着いている。スギ材は3m小径材、柱材ともに下げ止まり弱保合、4m中目材は無入札物件が目立ち、売りづらく弱保合。ヒノキ材は3、4mとも弱保合で価格は依然として下がったままである。

群馬県では原木入荷は順調で原木価格の下落が続いている。スギ3m柱材、中目材はダブっている。原木市場も置場がなく荷受けを制限。地場をはじめ売れ行きが悪いため、製材工場の在庫は日々増加している。製品価格は依然として下げ気配である。投げ売りの業者もいるため相場は混乱している。

2. 米材

2～3月のカリフォルニア州を中心とした米国西岸の天候不良による伐採減少に加え、原木価格の下落による山林所有者の伐採意欲の低下で原木供給が減少。製材生産地のオレゴン州南部を中心に需給バランスが崩れ、産地原木価格は底を打ち反転。米国西岸の原木供給はタイトだが、輸出向け原木需要が低調なため、港頭在庫の水準は通常並み。米マツ IS 級並の6月積み対日輸出価格は、産地側の値上げ要請に対し日本側は製材品市況の不調を理由に押し返し、前月据え置きのお\$940/千 SCR で決着した模様。カナダ BC 州内でも日中韓向けの原木需要が低調なため、相応量の原木が米国オレゴン州に向けて船積みされている。SPF 各工場は減産を継続中で、価格は変動幅の狭い範囲で推移している。5月に発生したアルバータ州の森林火災は規模を小さくしながらも続いている。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(6/8)は\$387/Mで5月頭に比べ6.5%の下落。

4月原木入荷は156千 m^3 となり、カナダからが入船の関係で87千 m^3 と前月比倍増。出荷は123千 m^3 となり、前月より増加。在庫は増加し184千 m^3 となり、在庫率は1.16ヵ月と久しぶりに1ヵ月を上回った。国内の製材品需要は依然回復せず、国内製材メーカーの苦境が続いている。東京木材埠頭の5月製品入荷は13千 m^3 (前月比7.0%増)、出荷は13千 m^3 (同7.0%増)、在庫は27千 m^3 (同1.9%増)。

3. 南洋材

サラワク州では天候は極めて良好だが、日本からの製品需要が弱く、現地の合板・製材工場は減産を継続している。原木価格は弱く、サプライヤーは採算割れの状態が続いている。FOB 価格は横ばい推移ながらリングット安によりサプライヤーの実入りは増えている。PNG では乾期に移行したが、台風により5月後半は雨天が続き、5月終盤に天候は回復したが、伐採は本格化していない。サバ州では天候は良好で、6月下旬～7月上旬に日本向け船積み約3,000 m³が予定されている。6月予想の原木入荷0千m³、出荷3千m³、在庫5千m³。製材品入荷は23千m³。フリー板市場は依然悪いが、安値での在庫処分の動きは見られない。

4. 北洋材

シベリア産地では夏山移行し、特にアカマツ良材の伐採量が減少している。主力シッパーの生産状況に大きな変化はないが、コンテナ不足が深刻化している。生産しても出荷できない状況が続いており、積極的な交渉にはなっていない。中国市場も価格を押し上げる勢いはないが、量は捌けるのでシッパーにとっては生命線である。アカマツ原板の交渉シーズンは終了し、価格帯は\$430～\$450/m³で余り変わらず。アカマツ完成品のSグレードは\$520/m³レベルと若干下がっているが、円安でコストは逆に上がっている。北洋材製材各社は高いコストの原板在庫はあるものの、国内製品価格がジリジリと下がっており逆ザヤが続いている。減産により耐えているが、原材料が安くなる見込みは立たず、厳しい状況である。4月の製品入荷(東京+川崎)は10.0千m³と大きく減少、出荷は13.9千m³と減少、在庫は減少し51.3千m³となった。

5. 合板

合板メーカーは6月も減産を継続しており、原木の受入制限を行っている。メーカー側は原木の仕入価格を下げていないが、合板価格がこれ以上下がると、素材生産業者に値下げを要請せざるを得なくなる可能性もある。米マツ原木は産地で底入れ感が台頭しており、当面值下がりは見込めない状況。

4月の国内合板生産量は19.5万m³、うち針葉樹合板は19.1万m³、出荷量は20.0万m³で在庫量は15.9万m³、うち構造用合板の在庫は13.9万m³と前月より減少したが、高水準が続いている。針葉樹合板はプレカット工場向けとルート向けで値差があり、6月はもう一段下がる可能性が高い。メーカーによっては即納が難しい品目が出始めている。輸入合板については3月までの構造用合板の投げ売りも止まり、相場は落ち着き始めている。マレーシアからの対日向け数量が3ヵ月連続の低水準になり、流通筋で多少の買付があった

模様。型枠合板は乱売が聞こえず様子見の状態が続いている。4月の合板輸入量は前月比0.6万m³減の15.1万m³となった。インドネシア以外の主要国からの輸入量は減少している、中国からの針葉樹合板の輸入量は6.076m³（12mm換算30.4万枚）。インドネシアでは各国からの引き合いは鈍く、またマレーシアでも日本からの引き合いは依然として少なく、合板メーカー各社は減産を継続している。

6. 構造用集成材

ラミナは今年第1・四半期契約分が順調に入港している。各社契約量を通常の6割程度に減らしているため入荷量は少ないが、6月以降は微増する見通し。第2・四半期契約は約€20アップの€290/m³程度で決着した。第3・四半期契約は横ばいが予想されている。オファー量は欧州の休暇時期のため減少する見込み。5月時点のラミナ入港価格は46,000円/m³程度で、7月以降も横ばいが予想される。4月の構造用集成材の入港量は3万m³で、ここ5年間で最低の水準となった。国内集成材メーカーの製品在庫は適正水準に向かいつつある。

7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも入荷は低調で慢性的な不足感が強い。解体材は発生、入荷ともに良くない。大手製紙・ボード会社は4月より購入価格の値上げを実施。製紙用チップは大手製紙会社の大型定期修理が連続し、消費量は一時的に減少している。同様に燃料用も大型定期修理、ボード会社の火災等で消費は一時的に減少。在庫は原料、燃料とも若干の積み増しは可能であるが、長期的には不足感が否めない。

8. 市売問屋

6月になっても当用買いが中心で荷動きは悪い。大手製材所は値下げしても売りたい模様である。スギ、ヒノキ構造材の価格は値下がり気味で、ウッドショック前の価格水準に戻るような状況になってきた。RW、WW、米マツと競合しているスギ、ヒノキの値下げが激しくなっている。

9. 小売

首都圏では新築住宅需要の減退が続いており、6月も木材製品の荷動きに活発さが見られず、総じて弱含みないし弱保合の基調である。国産材構造材はスギ、ヒノキとも弱保合で推移。外材構造材は先物価格や為替動向から下げ止まりの声も聞かれるが、需要の落ち込みが強く、値戻しは容易ではない。安価なスギ集成管柱の台頭も市況に影響を与えている。国産材造作材では店舗用に柱や間柱を再加工して販売する動きが活発である。首都圏のプレカット工場の稼働率は大手で8~9割、中小では7割程度の低調な動きである。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↗	↗	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↘	↗	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↘
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↘
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	↘
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↘
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↘			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	↘			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↘
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級 アカマツ (KD) 16×40上級	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
		//	10.5×10.5×2.98m	↘
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6 タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↘
	欧州産	//	型枠 12.0mm厚 3×6 針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↘